

コロコロバイキング

教科・場面

生活

授業・実践のねらい

- ・ゲームのルールを知り、見通しをもって取り組む。
- ・チームの友だちと協力してボールを転がす。
- ・チームの友だちと一緒に楽しい雰囲気を味わう。

対象の児童・生徒

- ・小学部3年生、4年生の合同学年。
- ・学習到達度のチェックリストを使用している児童が3名、コミュニケーション版のチェックリストを使用している児童が6名、計9名の学年で、幅広い実態の児童が在籍している。
- ・訪問籍の児童もあり、学校で行った授業を訪問 ver で取り組めるようにしている。

教材・教具



訪問用→

工夫したところ

- ・持ち手を児童に合わせてT字型にしたり紐をつけたりできるようにした。
- ・後半は難易度を上げるため、番号のくじを引き、出た数字に対応する穴をふさげるようにした。
- ・訪問用はベッドサイドで活動するため、側臥位でもボールが見えるように児童側のボードの壁を透明にした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ・4人チームになりボードの4隅を各自で持って、揺すったり持ち上げたりしてボールを穴に落とすゲーム。
- ・2チームに分かれ、どちらが多く穴にボールを入れられたかを競う。
- ・座位で取り組む児童の他、ゆらゆら椅子を用いて揺れの反動で動かすなど、各自の取り組みやすい姿勢で活動した。
- ・ボールを数える際には、透明の筒（小学部生徒指導部から借用）を使用し、視覚的に分かりやすいように工夫した。
- ・友だちがボードを動かすと連動して自分が持っている部分も動くため、チームで協力することを意識することができる。
- ・訪問用は、4隅ではなく2辺をそれぞれ児童、教師で持ち、協力して穴に入れる、というルールで取り組んだ。入ったボールの数を数え、次はもっとたくさん入れよう！と言葉かけしながら取り組んだ。
- ・訪問時に持っていきやすいよう、折りたためるようにした。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・回数を重ねる毎に、「せーの！」と掛け声をかけるなど、友だち同士で協力しようとする様子が見られるようになった。また、ボールが溜まっていると「〇〇さん、頑張ってる！」などの言葉かけもできる場面があった。
- ・ボールが一斉に転がる時の振動や音が気に入った児童が多く、声を上げたり身体を動かしたり、それぞれの方法で表出できた。